

第8回 安城市子ども・子育て会議 会議録

日時 平成28年2月12日(金)

午後1時30分～3時

会場 市役所本庁舎3階第10会議室

■出席(18名)

神谷和也会長、神谷明文副会長、榊原守委員、細井麻美委員、田中篤樹委員、岩瀬せつ子委員、野々山尚道委員、検校規世委員、杉浦正之委員、青木孝夫委員、土肥由美委員、鈴木靖子委員、杉浦栄治委員、正田政房委員、小松千鶴子委員、市川彩委員、木下直美委員

助言者：勅使千鶴教授

■欠席(3名)

永谷朝子委員、丸毛啓志委員、神尾壽明委員

■傍聴人

深谷恵子様

1. あいさつ

2. 議題

議題1 平成28年度保育園定員数について(資料1)

議題2 一時保育について(資料2)

議題3 事業進捗について

(1) 保育園の建替え計画について(みのわ、和泉保育園)

(2) (仮称)子ども発達支援センターについて

(3) 児童クラブについて

■議題

議題1 平成28年度保育園定員数について(資料1)

資料1に基づいて、事務局より説明

(神谷会長)

ご意見、ご質問があればお願いしたい。

(岩瀬委員)

定員が増えた園について、何歳児が増えたのかを知りたい。

(事務局)

和泉保育園は低年齢の増、二本木保育園は1, 2歳の増、新田保育園は1, 2歳の増、すずらん保育園は低年齢の増、小川保育園は3～5歳の増、ゆたか保育園は3～5歳の増。

(岩瀬委員)

3～5歳はてらべサニーサイドの90人も合わせて110人の増となるか。

(事務局)

3～5歳は全体に増えている。定員でいうと160人の増。

(岩瀬委員)

幼稚園連盟の意見をまとめて持ってきたので述べさせていただく。今幼稚園は定員が割れて大変な状況。定員の増もあり、保育園の入園要件が緩和されてきてしまうと、私立の幼稚園は授業料等の面でも公立のようにはいかないのが厳しい。共存という面も考えていただきたい。

(神谷会長)

共存を考えることは大切。今までも幼稚園にお世話になってきている。市全体を考えているか、幼稚園の圧迫要因になっていないか、共存できるような形での定員になっているのか事務局の説明を。

(事務局)

去年と比べて160人増になっているが、実際の申し込みを受けて定員を定めている。また、てらべサニーサイドの3～5歳の定員は90人となっているが当初はそこまでは達しないと考えている。また、保護者の方の就労の状況が変わってきており、長時間の就労をされている方などが保育園を希望していると考えている。共存を考慮して検討している。

(岩瀬委員)

今回出席に当たりいろいろな幼稚園からそういった状況だからよろしくお願ひしたいと言われており、私個人の意見でなくいろいろな幼稚園の意見を持って出席をしている。(私立)幼稚園に願書を出した人が(公立)幼稚園にも保育園にも願書を出し、公立が決まると公立に行ってしまうという状況もあり、実際にかなり定員割れが起きている。

幼稚園も預かりをやっており、幼児教育もレベルを考えながらやっている。共存を考えていただかないと、今まで私立幼稚園も60～70%の子どもの教育保育をやってきており、ここに来て保育園がたくさんできたからどうぞとなると、幼稚園もここまでがんばってきたのが認めてもらえないようにも感じる。予算があり定員増をするのはいいが共存を考えて欲しいとお願ひしてこいと言われてきた。幼稚園と保育園の教育の中身の違いもあり保護者の要望も違うが、今まですみわけができて繁栄してきたのでそのあたりもよく考えて欲しい。

(神谷会長)

こういった要望も切実な感がある。その点も配慮しての提案になっているのか、事務局説明を。

(事務局)

今回の定員については、実際の申し込みを反映して作成している。就労等の状況によって幼稚園と保育園のどちらを選ぶかは、保護者の考え方で選ぶということになる。幼稚園と保育園の違いを言えば、まず必要な預かり時間の長さ、公立幼稚園では預かり保育でも午後4時ごろまでだが保育園は延長があれば7時ごろまで。保護者の方の必要な状況によってどちらを選ぶのかは決まってくる。

(勅使先生)

今日の資料1の中では、3～5歳の内訳も示し、実際の入所者数も提示できるともう少し安心できる状況が分かるのではないかと。

(事務局)

入所者数については今調整を行っているところ。定員は2,930人に対し、実際の入所者数は11月申し込みの段階で2,670人と定員よりも少ない状況になっている。

(勅使先生)

その3～5歳の人数は示せるか。

それがあると私立幼稚園の余分な不安もなくなり、共存共栄で幼稚園でも保育園でもより良い教育保育を受けて、安城市の子どもたちが良い子育て支援を受けられるようになると思う。

(岩瀬委員)

民間保育園のことも考えると、0～2歳の状況も知りたいのではないかと。

(田中委員)

27年度から新制度が始まり、手探りの状況ではあるが、子育てのことなのでしっかりと計画をたてないといけないと感じている。疑問点として、子ども・子育て支援事業計画の合計数の3,777人に対して、示された定員数が4,315人とかなり多いが、当初の見込みよりも申し込みが多かったという解釈でよいか。

(事務局)

計画策定時の見込みの人数と比べて差があるというのは感じている。計画の段階では人口の推移とニーズ量を考えて計画の数値を算出しているが、今後需要がどの程度出るのか、場合によっては中間年などで計画の見直しも含めて考えていきたいと考えているのでよろしくお願ひしたい。

(田中委員)

保護者の需要の変化などで必要数が変わってきており、計画の見直しを考える必要もあるのでは。その際には民

間の幼稚園や保育園の意見も取り入れて計画を立てる必要があると思うので、今すぐには言わないが今後の検討事項として欲しい。

(市川委員)

私立の園の方と市の方がこういう場でしか意見交換をする機会がないというのがさみしく感じる。もっと情報交換をしていただけると、より良い子育て環境のためになるのではと感じた。

(岩瀬委員)

うれしい意見を頂いて感動している。保育園の定員の増について、意見交換の場が無く定員が増えてきた。同じ安城市の子育ての話なのでどこで教育保育が必要なのかということであれば、一緒に検討しなければおかしいと思う。

(勅使先生)

安城市だけでなく、今幼稚園の管轄のあり方が議論になっている。安城市は比較的、公立・民間と幼稚園・保育園の意思疎通をしてきたという実態はある。しかし、あまり浸透していないので広報などをしていく必要があると感じた。この場ではその意思疎通の仕組みがどんなものがあるのか、出席者の皆さんに事務局から紹介してほしい。

(事務局)

私立幼稚園と市との交流だが、施設長会という、公立私立含めた幼稚園保育園の施設長の顔合わせと情報交換をやっている。その中で研修も前回行っている。また、公立の研修の際には可能な限りお声をかけさせていただいている。私立幼稚園については県の私学助成が運営の資金になっているので市のほうではその状況は把握していない。保護者の方への授業料の補助については市で事務を行っている。

(神谷会長)

今までは子どもの数が右肩上がりだったのでどちらにもがんばってもらえないと必要な措置ができなかった。今の時代は子どもの数が横並び、減るかもしれないという状況なので、情報交換がより重要になる。また、保育園の入所要件が緩和されてきており、従来は幼稚園に行っていた人が保育園に行くようになってきている。意見交換の中でその基準を話し合うのは難しいのか。

(事務局)

求職活動の人も保育園に入園できるようになったが、これは安城市独自のものでなく国の方針。また期限が決まっているので就労が決まらなければ退園していただくことになり、就労等の入所要件を満たす方が保育園に入園することになる。

(検校委員)

この子ども・子育て会議の中で考えるべきことは、安城市のなかで幼稚園・保育園の集団保育を経験することなく小学生になるような子がいないか、全員に教育保育の場が提供できているかということ。その状況を確認するためにも幼稚園の定員数も入れて、この地域の子どもたちの実態をみんなで客観的な判断をしてみた方がいいと思う。

(事務局)

私立幼稚園の定員数は平成27年度については把握しているので、平成27年度の幼稚園・保育園の公立私立の定員数を提示することはできる。

(神谷会長)

事務局は次回から資料提供の際にはそういった資料も提示して欲しい。

(岩瀬委員)

幼稚園・保育園の公立私立全部を見て、保育園を増やすかどうかを決めて欲しい。

(田中委員)

低年齢児の話をしていただきたい。新制度が始まり今後見込まないといけないのは保育を必要とする0・1・2歳児の子どもの定員の確保だと思う。そこで今の選考基準について提案になるが、入所年齢に上限がある保育園を卒園し、他の保育園に行く児童について、入所選考に当たってもっと配慮をした方がいいと思う。たとえば2歳で卒園となり、3歳から別の保育園に申し込みをした際に、希望通りの園に行けない事が多いと、どうしても5歳までやっている園に申し込みが集中し偏りがでる。今後0・1・2歳児の子どもの定員の確保を考えていくと、上限がある保育園を卒園した児童については優先的に次の園に入園できるなど

の対応が必要だと思うが事務局の考えを聞きたい。

(事務局)

現状は指数表に基づいて入所選考を行っている。その中で低年齢児園の卒園児童については加算対象として優先を図っている。それによりなるべく入りたい保育園に入れるように調整を行っている。現状では指数表についてはこのままでお願いしたい。

(田中委員)

必ず入れるか、優先順位が上がるかではかなり違う。今すぐということではないが、今後0・1・2歳児の需要が高まる中でどのように施設整備をするのかと合わせて検討課題としていただきたい。

(神谷会長)

他に意見が無ければ採決に移りたい。

事案1の事務局提案の定員数に変更をするということで賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手多数)

過半数を占めておりますので議案1については原案のとおり承認されました。

今回はこれで承認となりますが、また来年も同様に定員の承認が必要になると思うので、事務局は次回は幼稚園も含めた安城市全体の児童の状況が分かる資料の提示をお願いしたい。

■議題

議題2 一時保育について(資料2)

資料2に基づいて、事務局より説明

(神谷会長)

質問等ありましたらお願いします。

(市川委員)

私的利用で不可が多くなっているが何か対策はあるか。

(事務局)

新設のてらベサニーサイド保育園でも10人の定員を設けて一時保育の受け入れを行うのでそれにより一定程度解消されると考えている。

(神谷会長)

不可というのはどこにも預けられなかったという意味か。

(事務局)

希望の日に希望の園に預けられなかった人の数。他園や別日に調整をして預けている場合もある。その確認も子ども課窓口での受付の際に、他園に空き状況を聞くなどの対応をしている。

(神谷会長)

この議題については事務局の報告事項ということなので、他に質問意見が無ければ以上とさせていただきます。

■議題

議題3 事業進捗について

(1) 保育園の建替え計画について(みのわ、和泉保育園)

事務局より説明

(神谷会長)

質問等ありましたらお願いします。

(神谷会長)

建替えに伴う定員の変更は予定しているか。

(事務局)

みのわ保育園については、現在定員85名から一時保育の10名を含む220名に増員予定です。和泉保育園については、現在検討中です。

(市川委員)

和泉の地域には新しい大きな住宅地ができるが、近くの小学校はいずれ減ることを考えてプレハブしか建て

ないと聞いたことがある。みのわ保育園の増員については児童の増加を見込んでのものか。

(事務局)

みのわ保育園については従来3・4・5歳のみの保育園であったが、0歳から受け入れを行うことができる園にする予定で、0・1・2歳の定員が90名ある。老朽化対策と合わせて低年齢児対策も主目的となっている。3・4・5歳の定員数は85名から120名に増える形になる。3・4・5歳については各年齢2クラスを考えているので20名ずつで合計120名となる。

(岩瀬委員)

市民のみなさんのことを考えると家の近くに欲しい。みのわや和泉が空いているからどうぞといわれても、希望されるか疑問に思う。市民のみなさんのご意見を聞いて作ってほしい。

(神谷会長)

定員数を増やしていく上では、子どもの絶対数が今後増えないということ、私立幼稚園の存在も考えながら検討する必要があるように思われる。

(勅使先生)

この子ども・子育て会議は安城市全体の子どもたちのことを考える場なので幼稚園保育園や公立民間に偏らず全体のことを考えて議論していく事が基本になると思う。人口動態やニーズに合わせて学区ごとに必要量を検討し、安城市は他市と比べても公立・民間と幼稚園・保育園がバランスよくやっつけられていると感じている。公立・民間と幼稚園・保育園の年齢ごとの平成27年度の定員数については、次回ではなく追加で提示して欲しい。それを受けて安城市全体としてどうすべきか、という事が考えられると思う。自分が所属しているところだけの意見ではなく、全体を考えての議論ができると良いと思う。

(事務局)

今回議題1からいきなり保育園の定員数をあげてしまったが、本来は公立・民間と幼稚園・保育園の年齢ごとと状況をご承知いただき、それを踏まえた上で次年度の保育園の定員数についてはこういう風にしたいとご説明するべきだったと反省している。

(市川委員)

今後、10年後にはおそらく児童数は減っているという中で、建替えをした施設は将来たとえば介護施設などの別目的で利用していくようなことは検討しているのか聞きたい。

(杉浦委員)

似た内容なので合わせて申し上げる。自分が町内会長をしている古井町にはゆたか保育園があり、避難所として指定されている保育園だが、トイレが児童用なので当然すごく小さく、災害時に使えるのか不安に思っている。大人用のトイレは災害時用の簡易トイレが数個あるのみ。建替えをされる際にはそのあたりも考慮していただきたい。

(事務局)

安城市も含めこの西三河の地域は人口については、今後まだ何十年か増えていくと予想している。その中で、みのわ保育園については今後も増えるであろう0・1・2歳のニーズを満たすよう、待機児童対策として低年齢児の拡充を決めた。和泉保育園については、住宅の開発の関係で若干定員を増やす可能性はあるが、そこまで大きな増員は必要ないのではと思っている。

施設の再利用については、安城市の人口についてはまだ減少する局面でないと考えており、子どもが減った時を想定して設計を行っているという状況ではない。

■議題

議題3 事業進捗について

(2) (仮称) 子ども発達支援センターについて

事務局より説明

(神谷会長)

質問等ありましたらお願いします。

(田中委員)

要望になるが、個人情報の取扱について議論していただきたい。保護者の同意を得ないと情報共有ができな

いということが多いが、保育園や専門施設がしっかりと連携できる体制をとった上で設置しないと意味がないと思うので検討していただきたい。

(事務局)

非常に重要な課題だと思っている。慎重に議論し、連携のとりやすいようしっかりやっていきたいと思っている。

■議題

議題3 事業進捗について

(3) 児童クラブについて

事務局より説明

質問無し

(神谷会長) すべての議題が終わりましたので事務局にお返しする。

以上